

市民生活に身近な「市の仕事」。 ここにも予算が使われています。

日常的な光景の多くにどのくらいの予算が使われているかはわかりにくいものです。
身近なものとして実感しやすい、いくつかの例をご紹介します。

ごみ、資源の収集処理に 要する経費

ごみの収集や消却、資源物のリサイクルなど

ごみ
処理

年間 **131億円**

世帯数：697,792世帯（平成27年9月1日現在）

1世帯あたりの
経費

年間
18,738円



保育園の運営に 関する経費

公立保育園、民間保育園の運営費など

子育て

年間 **375億円**

対象園児数：24,341人（月平均）

園児1人あたりに
必要な経費

年間
1,541,681円
このうち保護者からの負担
年間 386,914円



公園の維持管理に 要する経費

草刈や樹木の剪定にかかる経費など

環境

年間 **33億円**

公園管理面積：7,352,861m²（市民生活に身近な公園
＝約2,500m²の広さが目安）

2,500m²あたりの
経費

年間
1,132,528円



介護保健サービスに 要する経費

介護サービス・介護予防の実施の費用など

福祉

年間 **875億円**

要介護・要支援認定者数：54,113人

対象者1人あたりに
必要な経費

年間
1,616,609円
このうち65歳以上の保険料
からの負担 年間 367,946円



身近な例をチェックした後は、平成28年度予算とも関わりの深い「川崎市総合計画」の主要項目に沿って見てみましょう。

ことばの
解説③

総合計画 そうごうけいかく

今年は新しい「川崎市総合計画」スタートの年です。

総合計画は、私たちの「まち」川崎をもっと住みやすくするための方針や取組を定める、市政運営の基本となるものです。市の予算もここに示された計画にそって形作られています。こうした中長期のまちづくり計画は、市の財政にとっても土台と言えるものです。

関連記事 [P.9~12](#)